

理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童の育成
～国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連を通して～

宮崎市立木花小学校
教諭 秋山 俊介

目 次

I 研究主題	2-1
II 主題設定の理由	2-1
III 研究目標	2-2
IV 研究仮説	2-2
V 研究内容	2-2
VI 研究計画	2-2
VII 研究の全体構想	2-3
VIII 研究内容	2-4
1 主題の捉え方	2-4
2 国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫	2-4
(1) 「考えるための技法」について	2-4
(2) 指導事項の整理	2-4
(3) 本研究における重点指導事項	2-5
(4) 構成や推敲の学習活動を充実させるための手立て	2-5
3 他教科等との関連	2-6
(1) 各教科等において求められる言語活動	2-7
(2) 他教科等での活用場面	2-7
(3) 他教科等との関連を図る視点	2-8
4 検証授業Ⅰ	2-8
(1) 国語科の授業実践	2-8
(2) 考察	2-14
5 検証授業Ⅱ	2-14
(1) 社会科の授業実践	2-14
(2) 考察	2-18
6 児童の意識調査と感想	2-18
(1) 意識調査	2-18
(2) 児童の感想	2-20
IX 研究の成果と課題	2-20
1 成果	2-20
2 課題	2-20

参考・引用文献等

I 研究主題

理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童の育成
～国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連を通して～

II 主題設定の理由

グローバル化や情報化など今後の変化の激しい社会を生き抜く児童には、立場や考えの異なる他者と協働しながら課題解決を図ったり、新たなものを創造したりする力が求められてくる。そのために、学校教育では各教科等の指導において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を育てていくことが重要である。

現在、国語科においては、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本となる国語の能力を身に付けることに重点を置いた指導の改善・充実が図られている。また、国語科で培った能力を基本として各教科等における言語活動を推進している。その成果として、OECD生徒の学習到達度調査（PISSA2012）において「読解力」の平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっているなどの成果が見られている。

一方で、課題も見られる。平成26年度文部科学大臣「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」によると、我が国の子供たちについては、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題があると指摘されている。また、平成28年度の全国学力・学習状況調査の報告書において小学校国語科では、調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くことは、今後、十分な指導の改善が必要であることが挙げられている。本県においても、平成28年度全国学力・学習状況調査では「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」「事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」の指導事項において全国平均正答率を下回る結果となっており、本校においても、同様の結果となっている。これらのことから、理由や根拠を明確にし、自分の考えを表現する力を育成するための授業改善を図ることは喫緊の課題であると考えられる。

これまでの自分の実践を振り返ってみると、国語科「書くこと」の授業では、教科書の例文を参考にさせながら個に応じた指導を行ってきたが、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けさせるまでには至っていない。その原因としては、指導者として、どのような内容をどのように書かせればよいのかを考えさせる際、理由付けや順序立て、評価といった「考えるための技法」に着目した指導が十分ではなかったからではないかと考える。また、国語科の中だけで指導が完結してしまうなど、国語科で身に付けた力を他教科等で活用させる機会を意図的に設定できていないという現状がある。

そこで、本研究では、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を習得させるための国語科における指導方法と習得させた力を活用させるための他教科等との関連の図り方を明らかにしていくこととした。国語科「書くこと」の領域における指導では、「考えるための技法」を授業に取り入れることで、理由や根拠を明確にして書く力を高めていく。また、他教科等で国語科「書くこと」において習得した書く力を生かす場面を整理し意図的に活用させることで、習得した力の更なる育成を図っていきたい。

このように国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連を図ることで、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究目標

理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童を育成するために、国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連の在り方を究明する。

Ⅳ 研究仮説

仮説 1

国語科「書くこと」の領域において、「考えるための技法」を用いることで、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を習得させることができるであろう。

仮説 2

他教科等において、国語科で習得した書く力を生かす場面を整理し、意図的に活用させることで、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を育成することができるであろう。

Ⅴ 研究内容

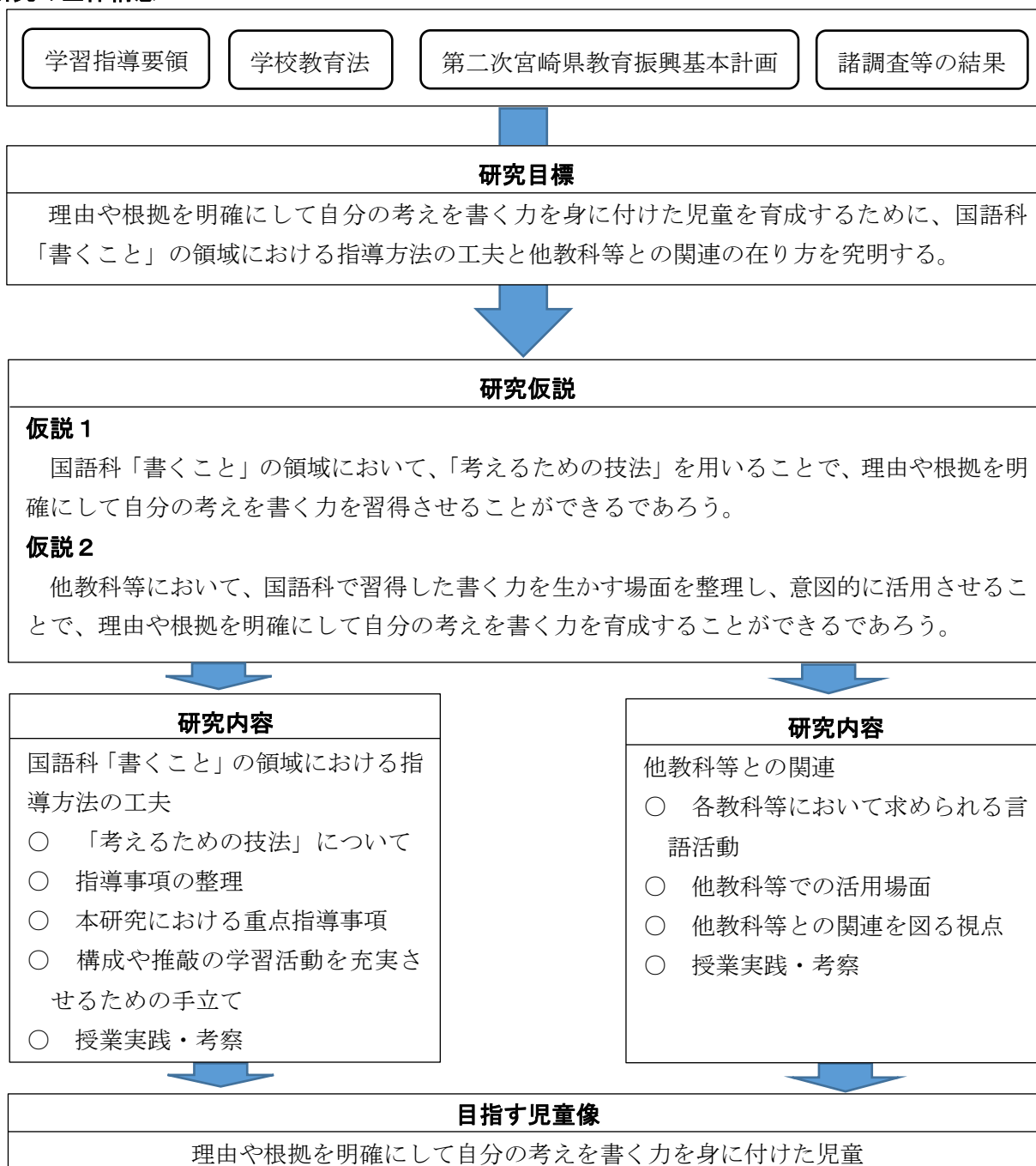
- 1 主題の捉え方
- 2 国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫
 - (1) 「考えるための技法」について
 - (2) 指導事項の整理
 - (3) 本研究における重点指導事項
 - (4) 構成や推敲の学習活動を充実させるための手立て
- 3 他教科等との関連
 - (1) 各教科等において求められる言語活動
 - (2) 他教科等での活用場面
 - (3) 他教科等との関連を図る視点
- 4 検証授業Ⅰ
 - (1) 国語科の授業実践
 - (2) 考察
- 5 検証授業Ⅱ
 - (1) 社会科の授業実践
 - (2) 考察

Ⅵ 研究計画

月	主な日程・内容	研究方法
4	○ 主題・副題・主題設定の理由・研究目標 研究仮説・研究内容・研究計画の設定	文献研究
5	○ 理論の構築	文献研究
6	○ 理論の構築	文献研究
7	○ 全体協議会 ○ 検証授業Ⅰの準備	文献研究 教材研究
8	○ 検証授業Ⅰ・Ⅱの準備	文献研究 教材研究
9	○ 検証授業Ⅰ 「国語科 理由づけを明確にして説明しよう グラフや表を用いて書こう」 ○ 検証授業Ⅰの考察	文献研究 授業実践と考察
10	○ 検証授業Ⅱ「社会科 わたしたちの食料生産」 ○ 検証授業Ⅱの考察	文献研究 授業実践と考察

1 1	○ 全体協議会に向けた準備	全体協議会の資料作成
1 2	○ 全体協議会（1 2 / 1 3）	全体協議会の資料作成 研究報告書の作成
1	○ 研究のまとめ	研究報告書の作成
2	○ 研究のまとめ	研究報告書の作成 パネルの作成
3	○ 主題研究発表会（3 / 9）	主題研究発表会の資料作成

VII 研究の全体構想



Ⅷ 研究内容

1 主題の捉え方

「根拠」や「理由」の捉え方について鶴田清司氏の著書を基に次のように整理した。「根拠」とは、誰が見ても明らかな証拠資料（客観的な事実・データ）のことであり、書かれたテキストにおける文・言葉、グラフや図表に示された数字、絵や写真に表されたものなどである。「理由」とは、事実・データに基づく解釈・推論のことであり、どうしてその証拠資料から「自分の考え」を示せるのかを説明するものである。本研究においては、この考えを基に「根拠」と「理由」を以下のように定義付けて研究を進めていく。

- | |
|--------------------------|
| ○ 「根拠」・・・客観的な事実・データ |
| ○ 「理由」・・・事実・データに基づく解釈・推論 |

2 国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫

(1) 「考えるための技法」について

「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書くためには、どのような内容をどのように書けばよいのかを考えることが必要となり、そのための技法を身に付けさせることが大切であると考えられる。そこで、理由付ける・順序立てる・比較する・評価するの4つの「考えるための技法」を用いることとする。なお、これらの技法は泰山裕氏・小島亜華里氏が教科共通に求められる思考スキルとして示されたものの中から本研究に関連するものを選んだものである。

【表1 「考えるための技法」の定義（泰山裕氏・小島亜華里氏の研究より）】

「考えるための技法」	定義
理由付ける	意見や判断の理由を示す。
順序立てる	視点に基づいて対象を並び替える。
比較する	対象の相違点・共通点を見付ける。
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ。

この4つの「考えるための技法」を用いることは、【表2】のようなよさがあると考えられる。

【表2 「考えるための技法」のよさ】

「考えるための技法」	よさ
理由付ける	「根拠」から「自分の考え」を示すための「理由」を考えることができる。
順序立てる	「理由」・「根拠」・「自分の考え」の3つの事柄を書く際の順序について考えることができる。
比較する	異なる文章構成を比較させることで、学習した文章構成の効果に気付かせることができる。
評価する	「自分の考え」や相互関係の明確さ、表現の適切さという視点で文章のよさや改善点を考えることができる。

(2) 指導事項の整理

第5学年及び第6学年の「書くこと」の領域における目標は「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書くこととする態度を育てる。」である。「書くこと」の領域は、「課題設定や取材」、「構成」、「記述」、「推敲」、「交流」の5つの指導事項で構成されている。そこで、「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く力を身に付けさせるために小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）を基に、5つの指導事項を【表3】のように整理した。

【表3 指導事項の整理】

指導事項	内容
課題設定や取材	目的や意図を明確にし、根拠となる資料を探すこと
構成	それぞれの段落の記述内容や段落相互の関係、文章構成を考えること
記述	事実と感想、意見などを区別するとともに、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして自分の考えを書くこと
推敲	「自分の考え」などを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかどうかを確かめること
交流	友達の文章のよさを感じ取ったり相手に助言したりすること

(3) 本研究における重点指導事項

本研究では、【表3】のように5つの指導事項を踏まえながら授業を行っていくが、4つの「考えるための技法」の活用がより多く求められる「構成」と「推敲」に重点を置いて指導していくこととする。理由付けること・順序立てること・比較することは、それぞれの段落の記述内容や段落相互の関係、文章構成を考える際に効果があると考えられる。また、評価することは、推敲する際に「自分の考え」などを明確にしているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかどうかを考える際に効果があると考えられる。そこで、重点指導事項と4つの「考えるための技法」を【表4】のように整理し、具体的な指導につなげていくこととする。

【表4 重点指導事項と4つの「考えるための技法」との関係】

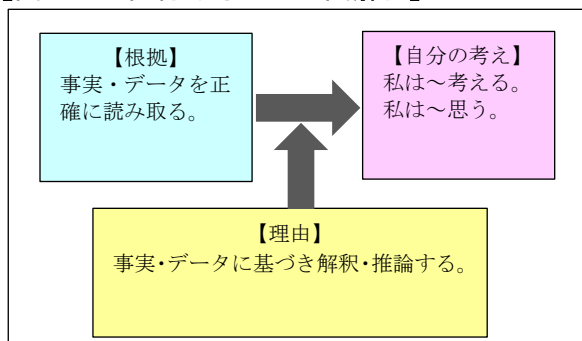
重点指導事項	「考えるための技法」	よさ
構成	理由付ける	「根拠」から「自分の考え」を示すための「理由」を考えることができる。
	順序立てる	「理由」・「根拠」・「自分の考え」の3つの事柄を書く際の順序について考えることができる。
	比較する	異なる文章構成を比較させることで、学習した文章構成の効果に気付かせることができる。
推敲	評価する	「自分の考え」や相互関係の明確さ、表現の適切さという視点で文章のよさや改善点を考えることができる。

(4) 構成や推敲の学習活動を充実させるための手立て

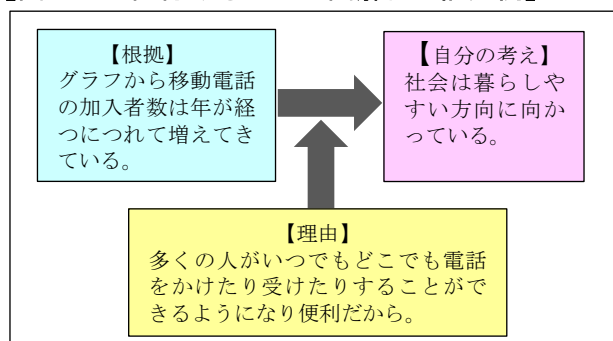
ア 理由付けるための手立て

「理由」とは、事実・データに基づいて解釈・推論し、どうしてその証拠資料から「自分の考え」を示せるのかを説明するものである。しかし、事実・データに基づいて解釈・推論し「理由」を記述することに対しては抵抗感がある児童もいると考えられる。そこで、理由付けるための手立てとして【図1】のように図解化をさせていく。図解化させることで、児童が頭の中にある情報を視覚的に捉えることができ、理由付けられるようになると考える。なお、図解化する際には、「理由」を考えさせる視点も明確に示していきたい。

【図1 理由付けるための図解化】



【図2 理由付けるための図解化の記入例】



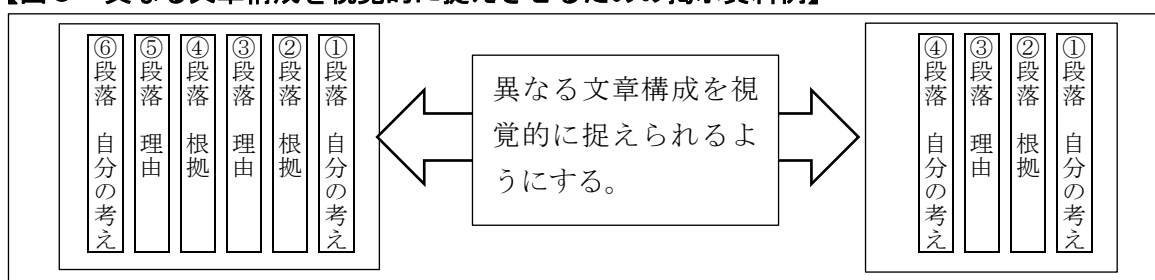
イ 順序立てるための手立て

「理由」・「根拠」・「自分の考え」の記述内容を決定したら、この3つの要素をどのような順番で書いていくか順序立てることが必要になる。その際には、「理由」・「根拠」・「自分の考え」を付箋に書かせておき、並べ替える活動を行わせていく。付箋は数種類の色があり、移動が可能であるというよさがある。色ごとに書く内容を整理させ、それらを並び替える活動を行わせることで、児童が文章構成について深く考えることができると考える。また、付箋には自分の思いや考えを端的に書くことができ、書くことが苦手な児童の抵抗感を軽減することにもつながると考える。

ウ 比較するための手立て

学習した文章構成の効果を考えさせるためには、異なる文章構成を比較させ、その違いを明確にさせることが重要であると考え。そのためには、異なる文章構成の違いを視覚的に捉えさせ、教師の発問を通して児童に比較させていくことが効果的であると考え。

【図3 異なる文章構成を視覚的に捉えさせるための掲示資料例】



エ 評価するための手立て

推敲する際に評価する視点がないと他者が読んで理解しやすい文章かどうかを判断することはできない。そこで、誤りを訂正したり、よりよい表現にするために書き直したりできるように評価シートを作成し、以下のような視点で自己評価や相互評価を行わせていくことにした。

- ① 「自分の考え」を書くことができているか。
- ② 事実を正確に書くことができているか。
- ③ 理由付けることができているか。
- ④ 「理由」・「根拠」・「自分の考え」を段落ごとに分けて文章を書くことができているか。
- ⑤ 誤字・脱字はないか。

3 他教科等との関連

「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」では、国語科において、記録、要約、説明、論述といった言語活動の能力を身に付けさせていくこと、また、国語科で培った能力を基本に、各教科等の目標を実現するための手立てとして、言語活動を充実させていくことが記されている。

そこで、本研究では他教科等の目標を実現するために、国語科「書くこと」の学習で身に付けた能力を発揮できるような場面を整理し活用させることで、国語科で習得した能力のさらなる育成につなげるようにしたい。

(1) 各教科等において求められる言語活動

「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」では、各教科等の指導において論理や思考といった知的活動を行う際、次のような言語活動を充実することが明記されている。

- 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
- 事実等を解釈するとともに、考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

留意事項としては以下のことが述べられている。

【事実等を正確に理解すること】

- ① 児童生徒が理解するに当たって、視点をもたせるようにすること
- ② 設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにすること

【他者に的確に分かりやすく伝えること】

- ① 自分や伝える相手の目的や意図をとらえるようにすること
- ② 目的や意図に応じて事実等を整理できるようにすること
- ③ 構成や表現を工夫しながら伝えられるようにすること

【事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること】

- ① 事実等を知識や経験と結び付けて解釈し、自分の考えをもたせるようにすること
- ② 自分の考えについて、探究的態度をもって意見と根拠、原因と結果などの関係を意識し、説明する際にはそれを明確に示すこと
- ③ 自分の考えと他者の考えの違いをとらえ、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして振り返るようにすること

【考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること】

- ① 考えを伝え合う中でいろいろな考えや意見があることに気付くことができるようにすること
- ② それらの考えには根拠や前提条件に違いや特徴があることに気付くことができるようにすること
- ③ それぞれの考えの異同を整理して、更に自分の考えや集団の考えを発展させることができるようにすること

上記の留意事項は、下線に示したとおり「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く活動と関連しているものが多い。以上の事から「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く力は、各教科等の目標実現のための言語活動を支える重要な力であると考えられる。

(2) 他教科等での活用場面

国語科で習得させた「理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力」を他教科等で活用できると考えられる場面について「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」に記載されている「教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項」を基に【表5】のようにまとめた。具体例については、第5学年の授業実践を想定したものを示している。

【表5 活用場面】

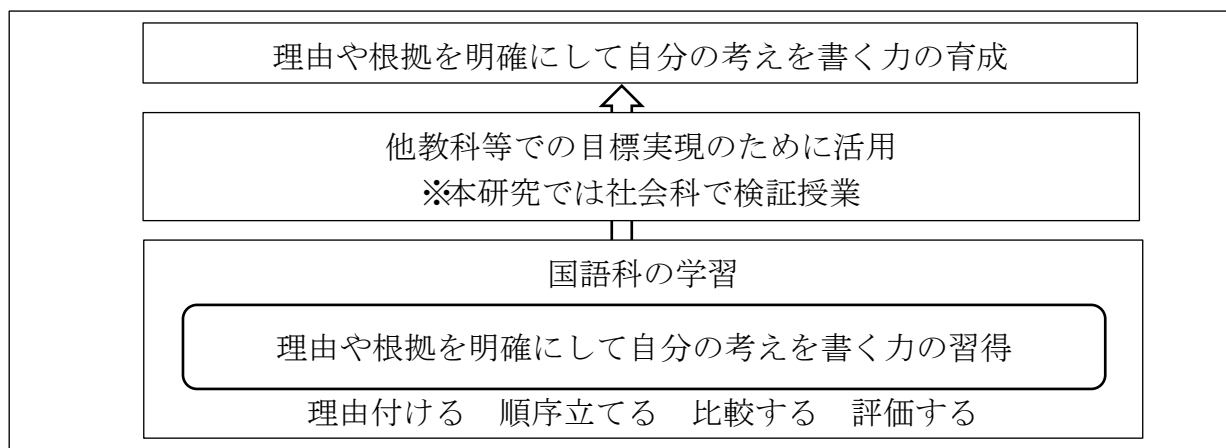
教科等	活用場面	具体例
社会	調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら、図や文章などで表現し説明する。	多くの食料を輸入に頼っていても問題はないのか、資料を基に自分の考えを説明する。
算数	言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解するとともに、それらを適切に用いて、問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする。	面積・人数が異なる場合、どちらが混んでいるのかを言葉や数、式を用いて説明する。

理科	科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする。	天気図を基に今後の天気を予想し、説明する。
家庭	自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする。	日頃の食事で五大栄養素をバランスよくとれているか分析し、食事のとり方で気を付けたいことを説明する。
体育	資料を基に練習方法や作戦を考えて教え合ったり、その成果や課題について話し合ったり、学習カードにまとめたりする。	ボール運動においてチームの動きを基に勝つための作戦を説明する。
道徳	道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める観点から、書く活動や話し合う活動など一人一人の感じ方や考え方を表現する。	登場人物の心情を資料の内容を基に説明する。
総合的な学習の時間	体験したことや収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めるとともに、他者に伝えたりまとめたりする。	調査した事を基に防災マップを作り、地震や津波の際の安全な避難の仕方をまとめる。
特別活動	自己の生き方についての考えを深めるために実践したことや体験したことを自分の言葉でまとめたり、発表し合ったりする。	これまでの係活動の取組を振り返り、これからどのような活動をしていくのかを説明する。

(3) 他教科等との関連を図る視点

本研究では、他教科等との関連を図る際には、理由付ける・順序立てる・評価するといった「考えるための技法」を活用したり、国語科で学んだ文章構成の効果を確認したりしながら学習を進めていく。そうすることで、国語科で習得した書く力を更に育成していくことができると思う。

【図4 他教科等と関連を図るイメージ図】



4 検証授業 I

(1) 国語科の授業実践 (全6時間)

【单元名】理由づけを明確にして説明しよう グラフや表を用いて書こう

【单元の目標】

- グラフや表を用いて、「理由」や「根拠」を明確にした意見文を進んで書こうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- グラフや表を用いて、「理由」や「根拠」を明確にした意見文を書くことができる。
(書く能力)
- 文末表現や双括型の文章構成の特色について理解することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

【主な学習活動】

統計資料等を用いて、「日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているか」という問いに対して「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く学習活動である。その際、「自分の考え」につながる資料を2つ用いさせ、双括型で文章を構成する。

時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	研究の視点
1	<p>1 本単元の学習内容を知り、単元全体の学習課題をつかむ。</p> <p>○ 学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グラフや表を用いて意見文を書こう。</p> </div> <p>○ 学習計画の確認</p>	<p>○ 「ごみの総排出量の推移」と「電話の加入数の推移」の2つのグラフを基に、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているか意見文を書かせる。</p> <p>○ 教師が書いた意見文を示すことで、本単元で完成させる意見文のイメージをもたせるようにする。</p> <p>○ 学習計画表を示すことで、児童が見通しをもって学習できるようにする。</p>	
2	<p>2 日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているか、向かっていないかを考える。</p> <p>○ 「自分の考え」の形成</p> <p>○ 資料の読み取り</p>	<p>○ 資料を読み取る視点を伝えることで、児童が資料から「自分の考え」の「根拠」を見出すことができるようにする。</p>	
3	<p>3 図解化を通して理由付けし、文章構成を考える。</p> <p>○ 「理由」の記述</p> <p>○ 文章構成の決定</p> <p>○ 文章構成の効果</p>	<p>○ 図解化を通して、「根拠」と「自分の考え」を結び付ける「理由」を考えさせる。</p> <p>○ 図解化した付箋を並べ替えさせることで、文章構成を考えさせる。</p> <p>○ 比較して考えさせることで、文章構成の効果に気付かせる。</p>	<p>理由付けるための図解化</p> <p>順序立てるための付箋の並び替え</p> <p>文章構成の効果を考えるための比較する活動</p>
4	<p>4 意見文の下書きをする。</p>	<p>○ 文章構成を基に、意見文の下書きをさせる。</p>	
5	<p>5 自己評価や相互評価を行い、下書きを推敲する。</p> <p>○ 評価する視点</p>	<p>○ 評価する視点を示し、意見文の下書きの自己評価や相互評価を行わせ推敲をさせる。</p>	<p>評価するための「文章評価シート」の活用</p>
6	<p>6 意見文を完成させ、友達と読み合う。</p>	<p>○ 互いに意見文を読み合い、助言し合うことを通して、自分の考えを深めたり自分の表現の参考にさせたりしていく。</p>	

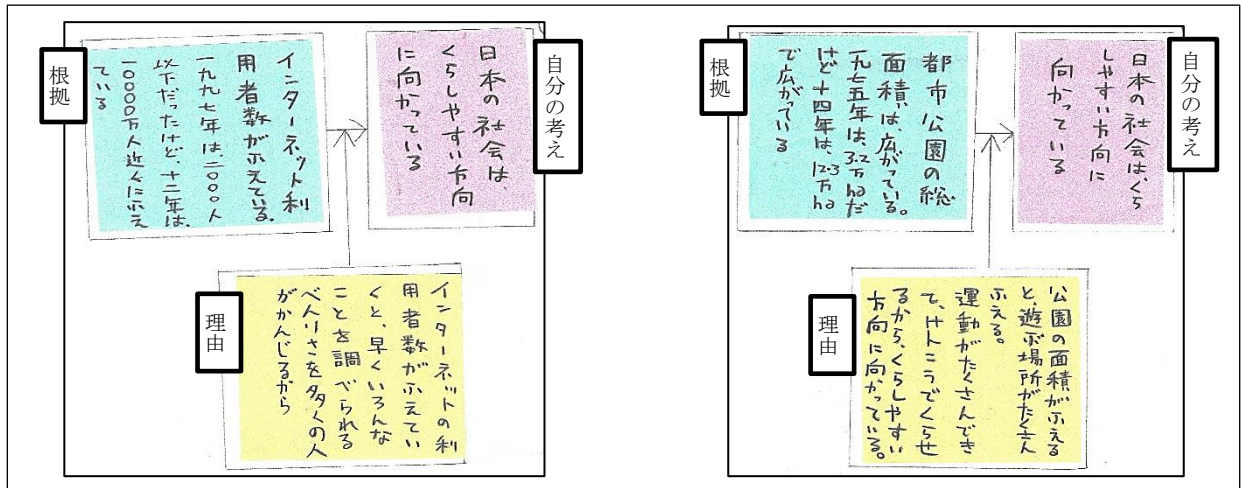
ア 理由付けるための図解化

単元の第2時に「自分の考え」と「根拠」を付箋に書く活動を行い、第3時では、理由付けるための図解化を行った。理由付ける際には、「社会は暮らしやすい方向に向かっている」と考えた児童には、便利さ、安心、楽しさという視点で、「社会が暮らしにくい方向に向かっている」と考えた児童には不便、不安、不快という視点で考えさせた。

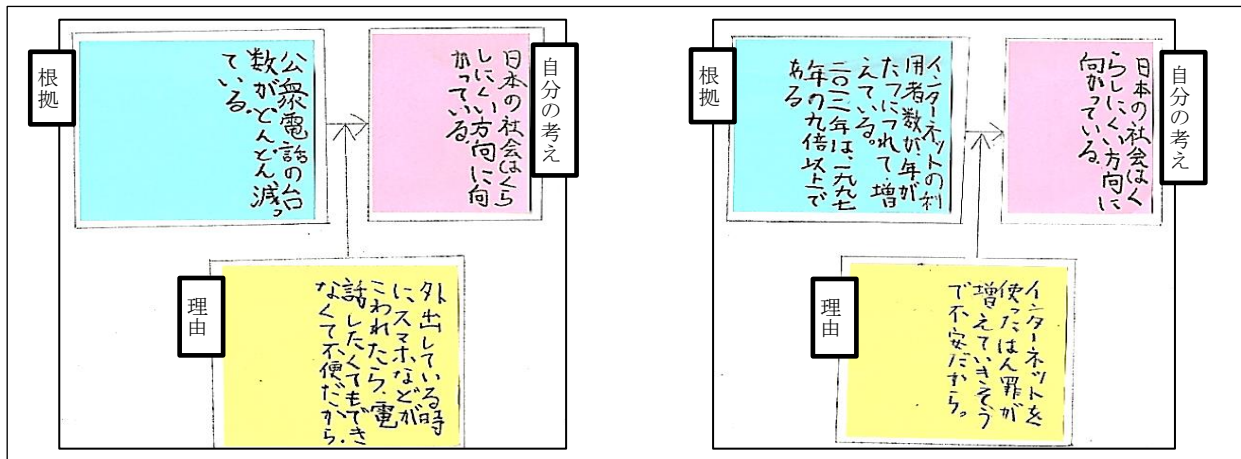
【画像1】は日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていると考えた児童がかいた図である。この児童は都市公園の総面積が増えているという事実を基に運動がたくさんできて健康で暮らせるから、インターネットの利用者数が増えているという事実を基に早くいろいろなことを調べられる

人が増え便利になるからと理由付けている。【画像2】は日本の社会は暮らしにくい方向に向かっていると考えた児童がかいた図である。インターネット利用者数が増えているという事実を基に、インターネットを使った犯罪が増えていきそうで不安だから、公衆電話の設置台数が減っているという事実を基に、スマートフォンなどが壊れた時に不便を感じるからと理由付けている。

【画像1 児童がかいた図】



【画像2 児童がかいた図】



イ 順序立てるための付箋の並び替え

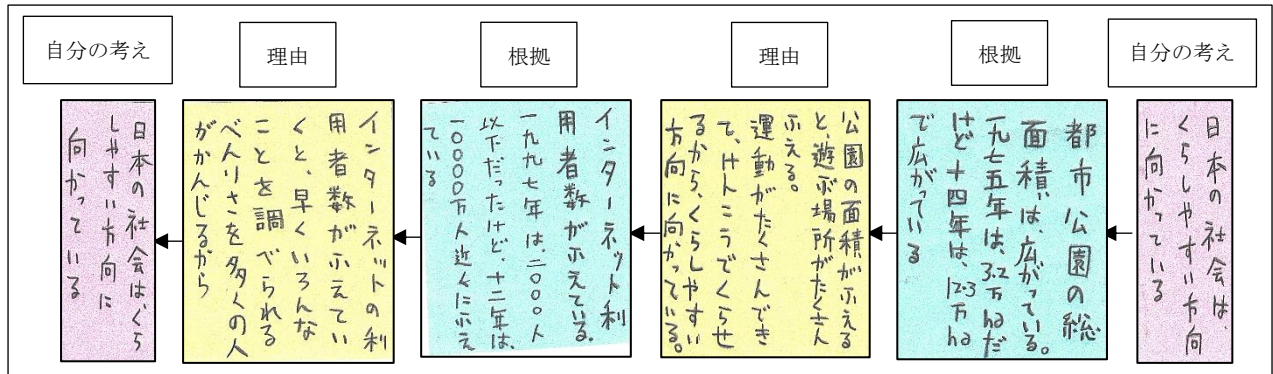
図解化を行った後は、付箋の並び替えを行わせることで、文章構成を考えさせた。並び替えを行わせる際には、本単元の1時間目に教師が示した以下の例文を基に並び替えを行わせるようにした。

(段落：①「自分の考え」 ②「根拠」 ③「理由」 ④「根拠」 ⑤「理由」 ⑥「自分の考え」)

① ぼくは、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていると思います。
 ② 右のグラフは、ごみの総排出量の推移を示したものです。このグラフから、一人一日当たり排出量と総排出量は年が経つにつれて減っていることが分かります。一人一日当たりの排出量は、二〇〇一年から二〇〇〇年にかけて約二〇〇グラム減っています。
 ③ ごみを減らすことで、ごみを焼きやすくし、分する時に出る二酸化炭素を少なくすることができ、今、問題となっている地球温暖化の対さくにもつながります。
 ④ 左のグラフは電話の加入数の推移を示したものです。このグラフから、移動電話の加入数は年が経つにつれて増えていることが分かります。一九九九年から二〇〇一年にかけては、加入数が二倍以上に増えていました。
 ⑤ 移動電話の加入数が増えることで、多くの人がいつでもどこでも電話をかけたり受けたりすることができるようになります。便利な社会になるといえるでしょう。
 ⑥ これらのことから、ぼくは、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていると思います。

【画像3】は【画像1】の付箋を児童が並び替えたものである。

【画像3 児童が並び替えた付箋】



ウ 文章構成の効果を考えるための比較する活動

付箋を並び替えた後には、学習する文章構成の効果に気付かせるための比較する活動を行った。双括型は「自分の考え」を強調する効果があること、また、資料を2つ用いて「理由」や「根拠」を2回示すことは文章の説得力を増す効果があることに気付かせるために、【図5】【図6】のような掲示資料を活用し、異なる文章構成を比較させた。

(7) 双括型のよさ

【図5】を基に、⑥段落がある時とない時を比較し話し合わせることで、最後の段落にも「自分の考え」を書いた方が読み手に「自分の考え」をしっかりと伝えることができることに気付かせた。

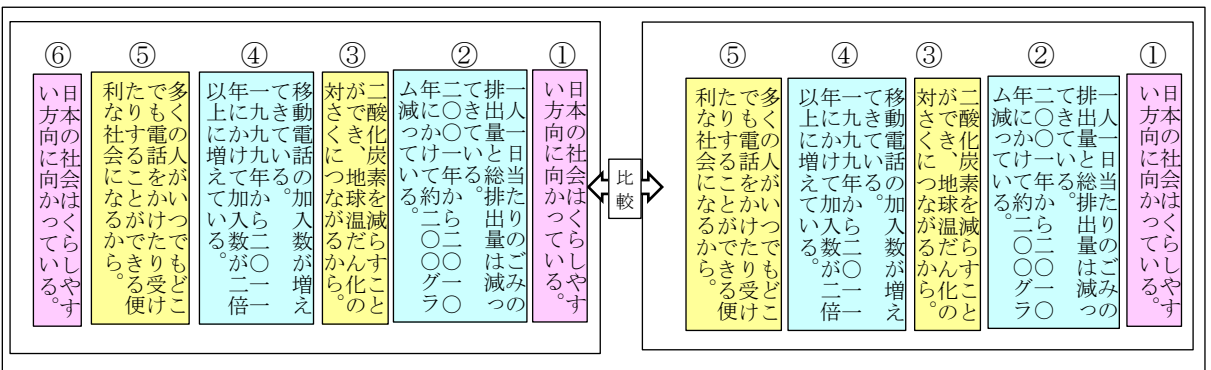
T: ①段落と⑥段落はどちらも「自分の考え」です。⑥段落がある時とない時（⑥段落を黒板からとる）はどちらの方がいいですか。

C1: ⑥段落があったときがいいです。資料から分かった事や「理由」を書いた後に、もう1度暮らしやすいと言った方がわかりやすいからです。

C2: ぼくも、⑥段落があった方がいいと思います。はじめに「自分の考え」もあるんだけど、「理由」などを書いた後に、だから、「自分の考え」はこうなんだと書いた方がよいしめくくりになって、相手に自分の考えが伝わるからです。

T: 2人の発表から、最後の段落でも「自分の考え」を書いた方が読み手に「自分の考え」をしっかりと伝えることができますね。

【図5 双括型のよさに気付かせるための掲示資料】



(4) 資料を2つ用い「理由」や「根拠」を2回示すよさ

【図6】を基に、資料を1つ用いた時と資料を2つ用いた場合を比較させることで、資料を2つ用いて、「理由」や「根拠」を2回書くことは資料が1つの時よりも説得力が増すことに気付かせた。

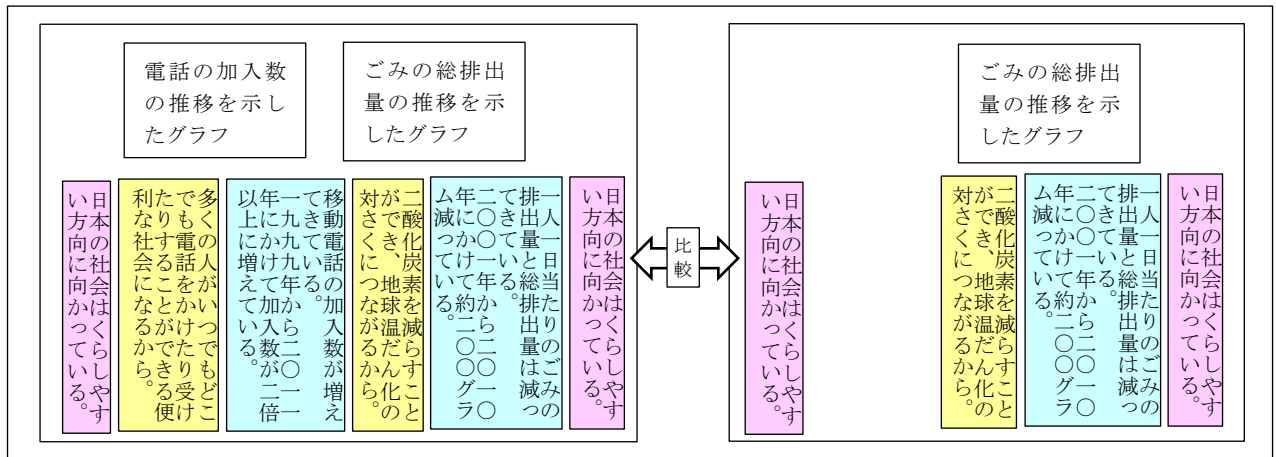
T: 「ごみの総排出量を示したグラフ」も「電話の加入数の推移を示したグラフ」も日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているということを書くために使っています。先生は「ごみの排出量を示したグラフ」だけで「電話の加入数の推移を示したグラフ」はなくてもいいかなと思います。(黒板から掲示資料をとる。)みんなは「電話の加入数の推移を示したグラフ」がある場合と無い場合ではどちらがいいと思いますか。

C1: 私は「電話の加入数の推移を示したグラフ」があった方がいいと思います。「ごみの排出量のグラフ」だけだと、暮らしやすい方向に向かっているということにあまり納得できないからです。

C2: ぼくも資料が1つよりも2つの方が、資料から分かることや「理由」が増えて、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていることになるほどと思うからです。

T: 資料が1つの時よりも資料を2つ用いて、「理由」や「根拠」を2回書いた方が説得力が増しますよね。

【図6 資料を2つ用い「理由」や「根拠」を2回示すよさに気付かせるための掲示資料】



エ 評価するための「文章評価シート」の活用

単元の第5時には【画像4】のような「文章評価シート」を活用し、前時に書いた下書きを自己評価した後、友達と読み合い相互評価を行った。

【画像4 文章評価シート】

文章評価シート		名前	
		自分	友達
1	自分の考えを書くことができています。	○	○
2	資料から分かることを正しく書くことができています。	○	○
3	説と自分の理由を書くことができています。	○	○
4	資料から分かること・理由・自分の考えを段落とに分けて書くことができています。	○	○
5	漢字や言葉の正しく書くことができています。	○	○
6	アドバイスをしている	○	△
7	具体的によさをほめている。	○	○

(2) 考察

仮説1を検証するために、グラフや表を用いて、「理由」や「根拠」を明確にした意見文を書くことができたのか、単元の第6時に児童が書いた文章を下記の評価基準で評価した。結果は【表6】の通りである。

【表6 国語科の授業における評価結果】

評価基準	割合
2つの資料から「理由」や「根拠」を明確にして、「自分の考え」を書くことができる。	75%
1つの資料から「理由」や「根拠」を明確にして、「自分の考え」を書くことができる。	22%
資料から「理由」や「根拠」を明確にすることはできていないが、文章を最後まで仕上げ「自分の考え」を書くことができる。	3%
文章を最後まで仕上げることができていない。	0%

「2つの資料から『理由』や『根拠』を明確にして、『自分の考え』を書くことができる。」
 「1つの資料から『理由』や『根拠』を明確にして、『自分の考え』を書くことができる。」の
 両項目を合わせた割合は97%であった。しかし、記述の仕方が不十分で、読み手にとって、「理由」
 が伝わりにくいものもあった。

5 検証授業Ⅱ

(1) 社会科の授業実践

他教科等との関連では、社会科で調べたことや考えたことを図や文章などで説明する場面において国語科で身に付けた書く力を活用させることにした。

【単元名】 これからの食料生産

【主なねらい】

我が国の食生活が輸入に頼っている現状やその問題点を捉えるとともに、今後の望ましい食料生産の在り方について理解する。

【国語科「書くこと」の領域との関連】

学習問題に対して、国語科で学習した「自分の考え」→「根拠」→「理由」→「根拠」→「理由」→「自分の考え」という文章構成でまとめを書かせる。

【学習内容及び学習活動】（全5時間）

時間	学習内容及び学習活動
1	○ 食料の輸入先を調べる。 ・多くの食料品を輸入
2	○ 多くの食料品を輸入する理由を考える。 ・食料自給率の低さ ・外国産の値段の安さ ・食生活の欧米化 ・国産の出回らない時期の補充
3	○ 食料を輸入に頼ることへの問題点を考える。 ・安全面への不安 ・自然災害による輸入量の減少 ・自然破壊
4	○ 国内の食料生産に関わる人たちの取組について調べる。 ・地産地消 ・トレーサビリティ
5	○ 「これから食料を安定的にまかなっていくために、どんなことに力を入れていけばよいのか。」について自分の考えをまとめる。

本研究では、本単元の第3時と第5時において国語科で習得した力を活用させていく。


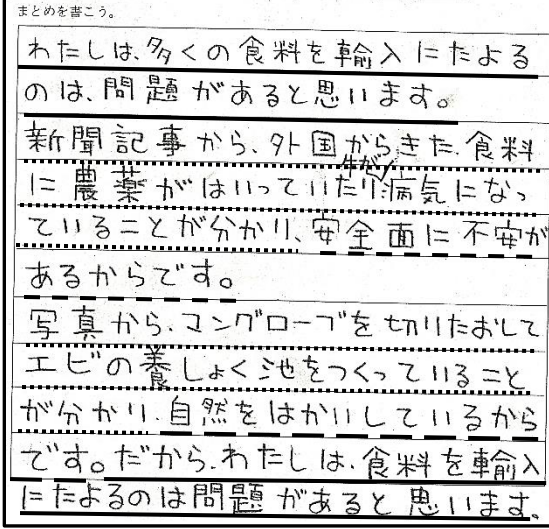
ア 第3時の授業実践

○ 目標

グラフ、新聞記事、写真資料から得た情報を基に、多くの食料を輸入に頼ることの問題点について考えることができる。

○ 指導過程

学習内容及び学習活動	授業の様子	国語科学習との関連
<p>1 本時の学習内容について話し合う。</p> <p>○ 前時の想起</p> <p>○ 将来の食料の輸入に対する意識の移り変わり</p> <p>○ 本時の学習問題</p> <p>多くの食料を輸入にたよっていても問題はないのか。</p>	<p>輸入が増えている理由</p> <p>① 外国産は国産よりも安い。 ② 国産で足りない分をおぎなっている。 ③ 食生活への変化の対応(洋食)。</p> <p>輸入された食料品のよさ</p> <p>輸入品は国民の食生活を豊かにするために欠かせないものだったね。</p> <p>【将来の食料の輸入に対する意識の移り変わり】</p> <p>食料の輸入に対して不安がある人が増えている。多くの食料品を輸入に頼っていても問題はないのかな。</p>	
<p>2 新聞記事・グラフ・写真を用いて多くの食料を輸入に頼っていても問題はないのかを考える。</p> <p>○ 安全面への不安</p> <p>○ 自然災害による輸入量の減少</p> <p>かんぼつでかかれたとうもろこし畑(アメリカ)</p> <p>○ 自然災害による輸入量の減少</p> <p>かんぼつでかかれたとうもろこし畑(アメリカ)</p>	<p>資料からわかること</p> <p>(① 中国)産の冷とうインゲンに (② 農薬)が入っていたり、 (③ アメリカ)産の(④ 牛)が 病気にかかったりしている。</p> <p>問題ある</p> <p>自分の考え</p> <p>理由</p> <p>農薬が入っている物を食べた り病気にかかった牛を食べると 自分が病気になり、被害があっ たりすると思うから、由全面に不安 があるから。</p> <p>資料からわかること</p> <p>(⑤ アメリカ)から一番多くとうも ろこしを輸入しているが(⑥ かんぼつ) によってとうもろこしが(⑦ かれる) ときがある。</p> <p>問題ある</p> <p>自分の考え</p> <p>理由</p> <p>とうもろこしの かんぼつがっついたら輸入が できなくなるから</p>	<p>「根拠」と「理由」を明確にして考えさせるために図解化を取り入れる。</p>

<p>○ 自然破壊</p>  <p>マングローブを切りたおしてえびの養殖池をつくっている(インドネシア)</p>	<p>自分の考え 問題がある。</p> <p>根拠</p> <p>理由 生き物のすみかをこわしているから。 自然はかいにもなる。</p>	<p>「根拠」と「理由」を明確にして考えさせるために図解化を取り入れる。</p>
<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>○ 国語科で学んだ書き方の確認</p> <p>○ 個人でのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の見直し <div data-bbox="231 1008 571 1220" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">評価する視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを書くことができる。 ○ 資料から分かることを正確に書くことができる。 ○ 説得力のある理由を書くことができる。 ○ 漢字や言葉を正しく書くことができる。 </div> <p>○ 全体でのまとめ</p> <div data-bbox="207 1299 571 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>安全面への不安 自然災害による輸入量の減少 自然破壊</p> </div>	<p>○ 「自分の考え」→「根拠」→「理由」→「根拠」→「理由」→「自分の考え」で書いたことで自分の考えを強調し、文章に説得力をもたせることができたことを確認した。</p>  <p>まとめを書く。</p> <p>わたしは、多くの食料を輸入にたよるのは、問題があると思います。</p> <p>新聞記事から、外国からきた食料に農業がはいていたり、病気になっていることが分かり、安全面に不安があるからです。</p> <p>写真から、マングローブを切りたおしてエビの養殖池をつくっていることが分かり、自然をはかいしているからです。だから、わたしは、食料を輸入にたよるのは問題があると思います。</p> <p>自分の考え —— 根拠 理由 - - - -</p>	<p>「理由」「根拠」「自分の考え」の3つの事柄を順序立てて文章を書く活動を想起させる。</p> <p>評価する活動を想起させる。</p>

イ 結果

「理由」や「根拠」を明確にして多くの食料を輸入に頼ることは問題があることを児童が書くことができたのか、児童が書いた文章を下記の評価基準で評価した。結果は【表7】の通りである。

【表7 第3時における評価結果】

評価基準	割合
2つの資料から「理由」や「根拠」を明確にして、「自分の考え」を書くことができる。	69%
1つの資料から「理由」や「根拠」を明確にして、「自分の考え」を書くことができる。	16%
資料から「理由」や「根拠」を明確にすることはできていないが、文章を最後まで仕上げ「自分の考え」を書くことができる。	6%
文章を最後まで仕上げることができていない。	9%

※ 本時の「自分の考え」とは、多くの食料を輸入に頼ることは問題があるという考えである。

ウ 第5時の授業実践

○ 目標

これから食料を安定的にまかなっていくために、どんなことに力を入れていけばよいのかについて自分の考えをまとめることができる。

学習内容及び学習活動	授業の様子	国語科学習との関連																
<p>1 本時の学習内容について話し合う。</p> <p>○ これまでの学習の想起</p> <p>○ 本時の学習問題</p> <div data-bbox="183 629 579 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これから食料を安定的にまかなっていくために、どんなことに力を入れていけばよいのか。</p> </div>	<p style="text-align: center;">授業の様子</p> <div data-bbox="624 439 1182 824" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="background-color: #f080f0; display: inline-block; padding: 2px;">これまでの学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食料自給率の低さ ○ 多くの食料品を輸入する理由 ○ 食料品を輸入に頼る問題点 ○ 地産地消 ○ トレーサビリティ <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>今日の学習問題はこれまでの学習を生かして考えていけばいいんだな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>輸入に頼る問題点や食料自給率の低さの解決策を考えていけばいいね。</p> </div> </div> </div>																	
<p>2 書き方の確認をする。</p> <p>○ 国語科で学んだ書き方</p> <p>3 自分の考えの裏付けとなる資料を2つ選び、図解化する。</p> <div data-bbox="228 1223 499 1588" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>牛肉 (単位: 100kgあたり)(2012年)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>国産</td><td>100</td></tr> <tr><td>外国産</td><td>300</td></tr> </table> <p>かぼちや</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>国産</td><td>10</td></tr> <tr><td>外国産</td><td>20</td></tr> </table> <p>プロックリ</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>国産</td><td>10</td></tr> <tr><td>外国産</td><td>20</td></tr> </table> <p>たまねぎ</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>国産</td><td>10</td></tr> <tr><td>外国産</td><td>20</td></tr> </table> <p>※いずれも100gあたりの1年間の平均値</p> <p>国産と外国産の農産物のねだん (2013年 農林水産省調べほか)</p> </div> <div data-bbox="169 1653 576 1899" style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>中国産 冷凍インゲンに農薬</p> <p>中国産の冷凍インゲン(冷凍インゲン)に農薬が検出された。農産物の安全性に問題がある。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>米で初のBSE 政府 牛肉輸入を禁止</p> <p>牛肉にBSEウイルスが検出された。政府は牛肉の輸入を禁止した。</p> </div> </div>	国産	100	外国産	300	国産	10	外国産	20	国産	10	外国産	20	国産	10	外国産	20	<p>○ 「自分の考え」→「根拠」→「理由」→「根拠」→「理由」→「自分の考え」で書いたことで自分の考えを強調し、文章に説得力をもたせることができたことを確認した。</p> <div data-bbox="608 1200 1222 1559" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>資料から分かること</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>農産物のわだんは国産よりも外国産が多い</p> <p style="text-align: right;">根拠</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>自分の考え</p> <p>地産地消に力を入れる。</p> <p style="text-align: right;">自分の考え</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">理由</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>国産の農産物がうれず、日本の農家がへるかも知れないから</p> <p style="text-align: right;">理由</p> </div> </div> <div data-bbox="608 1615 1222 1973" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>資料から分かること</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>農薬や牛の病気で安全性に問題がある</p> <p style="text-align: right;">根拠</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>自分の考え</p> <p>地産地消に力を入れる</p> <p style="text-align: right;">自分の考え</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">理由</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>新せんで安全安心だから</p> <p style="text-align: right;">理由</p> </div> </div>	<p>「理由」「根拠」「自分の考え」の3つの事柄を順序立てて文章を書く活動を想起させる。</p> <p>「根拠」と「理由」を明確にして考えさせるために国語科の学習で行った図解化を取り入れる。</p>
国産	100																	
外国産	300																	
国産	10																	
外国産	20																	
国産	10																	
外国産	20																	
国産	10																	
外国産	20																	

<p>4 図解化を基にして文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の見直し <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #f0f0f0;">評価する視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを書くことができている。 ○ 資料から分かることを正確に書くことができている。 ○ 説得力のある理由を書くことができている。 ○ 漢字や言葉を正しく書くことができている。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ぼくは地産地消に力を入れていくと よいと思います。 農産物のねだんは国産よりも外国産 の方が安いのです。外国産がふえると国 産の農産物がうれなくて日本の農家が へたていくかもしれないからです。 また、外国産には安全性の問題があ るものがありました。地産地消であ れば、秋先で安全安心だからです。 だから、ぼくは地産地消に力を入 るとよいと思います。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の考え ——— 根拠 …………… 理由 — — —</p> </div>	<p>評価する活動を想起させる。</p>
<p>5 授業のまとめをする。</p>	<p>○ 地産地消に力を入れる、外国との関係に気を付ける、輸入に頼らないようにする3つの考えを児童が発表した。</p>	

エ 結果

「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書くことができたのか、児童が書いた文章を下記の評価基準を設定し評価した。結果は【表8】の通りである。

【表8 第5時における評価結果】

評価基準	割合
2つの資料から「理由」や「根拠」を明確にして、「自分の考え」を書くことができている。	73%
1つの資料から「理由」や「根拠」を明確にして、「自分の考え」を書くことができている。	21%
資料から「理由」や「根拠」を明確にすることはできていないが、文章を最後まで仕上げ「自分の考え」を書くことができている。	3%
文章を最後まで仕上げることができていない。	3%

(2) 考察

仮説2を検証するために社会科の授業実践を行った。「2つの資料から『理由』や『根拠』を明確にして、『自分の考え』を書くことができている。」「1つの資料から『理由』や『根拠』を明確にして、『自分の考え』を書くことができている。」の両項目を合わせた割合を見ると、第3時は85%、第5時は94%であった。

しかし、社会科では、国語科の授業後の評価に比べ、「資料から『理由』や『根拠』を明確にすることはできていないが、文章を最後まで仕上げ『自分の考え』を書くことができている。」「文章を最後まで仕上げることができていない。」児童の割合が高くなっている。

6 児童の意識調査と感想

(1) 意識調査

ア 「構成」と「推敲」に関する意識調査

本研究では国語科「書くこと」領域では「構成」と「推敲」を重点指導項目とし手立てを講じた。また、その手立てを社会科の授業でも取り入れ、文章を書かせた。その手立てが児童の意識にどのような変容をもたらしたのかを把握するため意識調査を行った。

【表 9 「構成」と「推敲」に関する意識調査の結果】

質問項目	月	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない
文章構成を考えて文章を書くことができる。	9月	15.6%	43.8%	25.0%	15.6%
	10月	57.6%	36.4%	3.0%	3.0%
文章を書いた後、見直しや書き直しをすることができる。	9月	40.6%	25.0%	28.1%	6.3%
	10月	48.5%	42.4%	9.1%	0%

どちらの質問項目とも9月（国語科の検証授業前）に比べ、10月（社会科の検証授業後）の方が肯定的な回答が増えていた。この結果から、国語科で講じた手立てを社会科でも取り入れることは、児童の「構成」や「推敲」に関する意識改善にも効果があったと考えられる。

イ 全国学力・学習状況調査との比較

本研究と関連する全国学力・学習状況調査と同様の意識調査を実施し、全国の結果と比較した。

【表 10 理由を書くことに関する意識調査の結果】

質問項目	月	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない
国語の授業で自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。	4月 全国	32.1%	42.1%	20.3%	5.3%
	9月 授業前	27.8%	38.9%	27.8%	5.6%
	9月 授業後	57.6%	39.4%	3.0%	0%

※4月全国の結果は平成28年度のものである。

国語科の検証授業の前後を比べると、考えの理由が分かるように気を付けて書く意識が高まってきている。9月の授業後は、肯定的な回答の割合が全国学力・学習状況調査の結果を上回っており、本研究の国語科で講じた手立てが「自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。」という意識改善にも効果があったと考えられる。

【表 11 自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることに関する意識調査の結果】

質問項目	月	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない
学校の授業などで自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しい。	4月 全国	23.8%	30.9%	26.3%	18.9%
	9月 授業前	30.6%	30.6%	33.3%	5.6%
	9月 国語科授業後	30.3%	24.2%	33.3%	12.1%
	10月 社会科授業後	29.4%	32.4%	20.6%	17.6%

※4月全国の結果は平成28年度のものである。

【表 11】から、本研究によって「学校の授業などで自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすること」の難しさを軽減させるまでには至っていないことが分かる。今回の研究では、国語科と社会科のみの授業実践であったために、今後、児童に書く機会を多く与えていくことや、児童に他の人に分かりやすい文章を書くことができたという実感を積み重ねられるような指導が必要であると考えられる。

(2) 児童の感想

- ・ 前は、文章の書き方がわからなかったけど、この学習を通してわかるようになりました。
- ・ 私は書くことが苦手だったけど、ちょっとだけ好きになったので良かったです。
- ・ 国語で学んだ図がうまくかけるようになりました。
- ・ 国語で学んだ説得力のある文章の書き方を社会の学習でも使えたのでよかったです。
- ・ 国語と社会の学習につながりがあり、国語で学習したことを使うことで、よりわかりやすく勉強できました。

これらの感想から、書き方の理解が深まったこと、書くことへの苦手意識が和らいだこと、理由付けるための図解化できるようになったこと、国語科で学んだ書き方を社会科でも活用できたことが伺える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 国語科「書くこと」の領域において、理由付ける・順序立てる・比較する・評価するといった「考えるための技法」を用いることで、「理由」を明確にしたり、文章構成を考えたり、分かりやすい文章になるように推敲したりする姿が見られ、「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く力の習得につなげることができた。
- 社会科の授業において、国語科で習得した書く力を生かす場面を整理し意図的に活用させたことで、理由付ける・順序立てる・評価するといった「考えるための技法」を用いたり、文章構成の効果を考えたりしながら文章を書く姿が見られ、書く力の育成につなげることができた。
- 本研究での取組を通して構成や推敲をしたり、「理由」に気を付けて文章を書いたりする児童の意識を高めることができた。

2 課題

- 国語科で習得させた書く力を社会科以外の教科等でも活用した授業実践に取り組んでいく必要がある。
- 国語科・社会科ともに書くことに抵抗感のある児童が見られた。今後も、理由付ける・順序立てる・評価するといった「考えるための技法」を意識させながら、自分の考えを書く機会を確保するなど、書くことに慣れさせるための継続的な指導が必要である。

参考・引用文献等

- 「小学校学習指導要領解説 国語編」 (平成20年8月 文部科学省)
- 「小学校学習指導要領解説 社会編」 (平成20年8月 文部科学省)
- 「言語活動の充実に関する指導事例集」【小学校版】 (平成23年 文部科学省)
- ～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～ (平成25年 水戸部修治 明治図書)
- 小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド (平成26年 関西大学初等部 さくら社)
- 思考ツールを使う授業 (平成26年 関西大学初等部 さくら社)
- 言語活動を支える論理的思考力・表現力の育成 (平成25年 河野順子・熊本大学教育学部附属小学校 溪水社)
- 言語活動は授業をどう変えるかー考え方と実践のヒントー (平成23年 北俊夫 ぶんけい)
- 論理的思考力・表現力を育てる三角ロジック (平成29年 鶴田清司 図書文化)
- 表とグラフでみる日本のすがた2017 (公益財団法人矢野恒太記念館編集・発行)

《研究実践校》 宮崎市立木花小学校